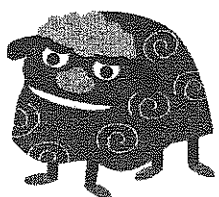




こんだてメモ

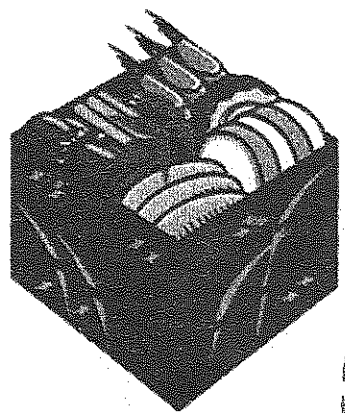
平成28年1月
福生市学校給食センター



お正月の食事について

日本人にとって、昔からお正月はとても大切なものでした。昔は、お正月が始まると家に年神様(お正月様ともいう)がくるといわれていたのです。お正月にはおせち料理を神様に供え、神様と同じものを食べることで、1年を健康に過ごすための力をもらおうと考えられていました。

おせち料理



お雑煮

もともと年神様にお供えしたその土地の産物ともちをひとつのなべで煮て作ったものでした。もちの形、もちを火炙くのか煮るのか、汁はすまし汁かみそ汁か、具の種類などは、各地域によってさまざまです。

おせち料理は、このような重箱につめます。重箱は五段が正式です。

子羊がたくさんできることから、子宝に恵まれますように。

穴がたくさんあることから、物事の見過しが良くなりますように。

おせち料理の意味

まめ(まじめ)に働けますように。

腰が曲がるまで長生きできますように。

「よろこんぶ」にかけて、喜びの多い一年でありますように。

関東風



・もちが四角。
・すまし汁じたく。

関西風



・もちが丸。
・みそ汁じたく。

そのほかの年中行事食について

日本には、一年を通じてさまざまな行事のときに食べる行事食があります。その中からいくつか紹介します。

1月7日 七草がゆ

1月7日の朝に春の七草である「せり、なすな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな(かぶ)、すずろ(大根)」を入れたおかゆを食べると1年間病気をしないといわれています。



3月3日 桃の節句

女の子の幸せを願うひな祭りのことですが、かしもち(は)上から赤、白、緑の順番が多くみられます。それぞれ春の花、雪、大地の草を表すといわれています。また、はまぐりの薄月汁がよく作られます。はまぐりの2枚の葉は、対になっている貝以外とは絶対にがみ合わないことから、夫婦の仲のよさを表すといわれています。



12月22日 冬至

1年で最も昼の時間が短い日です。昔から、この日には「ゆず湯」に入ったり、かぼちゃを食べると風邪をひかないという言い伝えがあります。また、「ん」のつく食べものを食べると幸せになれるともいわれています。

2月3日 節分

節分に豆まきを行うのは、白まき生活を転土での災いや病気などの目に見えないものを鬼という形にあらわし、豆をまくことでそれらを追い払い、福を呼び込むという意味があります。また、いわしの頭を焼いて柵の枝に束し、玄関にかざして鬼を追い払う習慣もあります。



9月15日 十五夜

十五夜の月は1年で最も美しいといわれ、月見かざりをしてお月見をします。月見かざりは、すずきや月見だんごを供える場合が多いです。そのほか、月にちなんで重芋など丸いものを供えることがあり、十五夜は「芋名月」とよばれることもあります。



12月31日 おおみそか

おおみそかの夜には年越しそばを食べる習慣があります。もともと、江戸時代には月末にそばを食べる「三十日そば」の習慣があり、おおみそかにだけその習慣が残ったと考えられています。また、そばが細く長いことから、寿命が細く長く続くようにという願いがあるともいわれています。

